

# 「一休宗純と森女図」 保存修復事業レポート ①

2021年10月1日に修復事業の開始をお知らせした「一休宗純と森女図」について、進捗状況をご報告します。

①修理前の作品です。修理に着手する前に作品をよく観察し、どこが傷んでいるのか、どのような状態なのかを把握します。現在は本紙全体に細かい横折れが多数発生し、絵具の剥落も散見される状態です。放置しておくと横折れ部分から本紙が裂けて絵が欠失し、鑑賞の妨げとなってしまいます。

◀修理前の状態。  
ここから修理に着手していきます。

ろくしょう  
緑青（緑色の絵具）が剥落しています。▶



②次に掛け軸を解体するため、掛け軸の表装裂を取り外します。表装裂にも傷みが見られましたが、本作の表装には貴重な紫地印金などの古裂が使われています。そのため、新しい裂に取り替えるのではなく、裂にも修復を施して再使用することにしました。



▲表装裂を取り外しているところ。▲



▲剥落止めをしているところ。

③表面に剥落止め（絵具の剥落を防ぐため布糊で絵の表面をコーティングすること）を施してから、作品を裏返します。作品の裏側には、裏打紙という本紙を補強する紙が幾重にも重ね貼りされていますが、これを慎重に取り除いていきます。裏打紙を外した状態で作品の現状を観察すると、本紙が小さく欠失している部分もありましたが、室町時代の作品としては珍しいほど、元の紙がよく残っているのが確認できました。過去に行われた修理の丁寧な仕事ぶりがかげえ、本作がとても大切に扱われてきたことがわかります。

現状を踏まえ、今後どのように修理を進めていくかという修理の方針を、修理監督の先生、修理業者、当館学芸員とで検討しました。

本作品は2021年10月から三菱財団の文化財保存修復事業助成を受けて、本格的な修理に着手しています。完成は2023年9月を予定しておりますので、続報をお待ちください。